

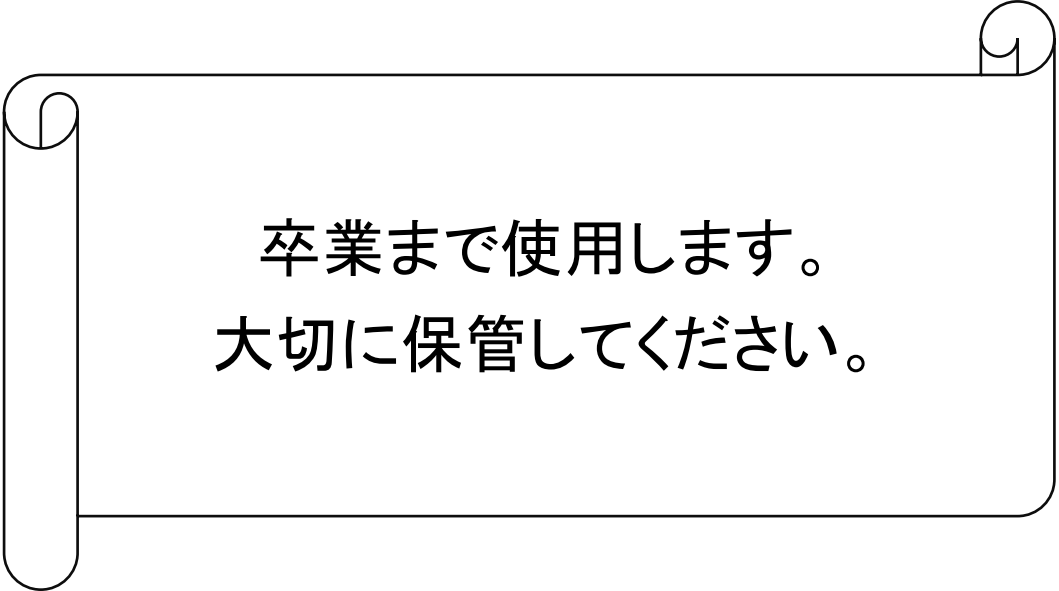
履修の手引き

令和 7 年度 入学生用

生活環境学部 生活環境学科

Nagoya Aoi University

名古屋葵大学



卒業まで使用します。
大切に保管してください。

目次

《共通編》

I. はじめに.....	3
II. 学生支援センターの場所.....	3
III. 授業について.....	4
1. 授業の開講形態.....	4
2. 授業時間割.....	4
3. 授業・試験時間.....	4
4. 授業科目の種類.....	4
5. 休講.....	5
6. 補講.....	6
7. 出席確認.....	6
8. 欠席・遅刻・早退.....	7
9. オフィスアワー.....	7
10. ポータルサイト.....	7
11. 合理的配慮.....	7
IV. 履修について.....	8
1. 単位制度.....	8
2. 卒業要件.....	8
3. 履修登録単位数の上限設定(CAP 制).....	8
4. 履修登録と手順.....	10
5. 履修登録の留意点.....	11
6. 特別履修届の提出について.....	11
7. 免許・資格の申請、取り消しについて.....	11
8. 履修登録時のチェックシート.....	12
9. シラバスの見方.....	13
10. 教育課程.....	14
11. 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』.....	14
12. 科目ナンバリングについて.....	15
13. 開放科目について.....	16
14. 単位互換制度.....	17
15. 海外留学.....	17
V. 試験について.....	18
1. 試験の種類と方法.....	18
2. 期末試験.....	18
3. 追試験.....	18
4. やむを得ない理由を証明する書類.....	18
5. 再試験.....	18
6. 追試験・再試験手続一覧.....	19
7. 受験資格.....	19
8. 受験時の諸注意(期末試験、追・再試験).....	19
9. 追試験・再試験の手続きの流れ.....	21

VI. 成績評価について.....	22
1. 成績の評価・単位の認定.....	22
2. 成績の通知.....	22
3. 成績の問い合わせ.....	22
4. GPAについて.....	22
VII. 規程.....	23
VIII. 教務関係の用語集.....	23

《学科編》

1. ディプロマポリシー(学位授与の方針).....	25
2. カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針).....	26
3. 教育課程.....	28
全学共通科目.....	28
生活環境学科.....	29
(1)教育目的について.....	29
(2)授業科目について.....	29
(3)教育課程について.....	30
(4)資格について.....	32
①建築士・インテリアプランナー.....	32
②テキスタイルアドバイザー.....	34
③フードコーディネーター.....	34
④フードスペシャリスト.....	34
⑤日商簿記検定.....	34
⑥ファイナンシャルプランニング技能士.....	34
⑦情報処理士・上級情報処理士.....	35
⑧ITパスポート試験.....	35
⑨ホームページ作成検定.....	35
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー.....	36
教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法.....	42
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー.....	43
4. 免許・資格.....	45
教員免許状.....	45
中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭).....	48

I. はじめに

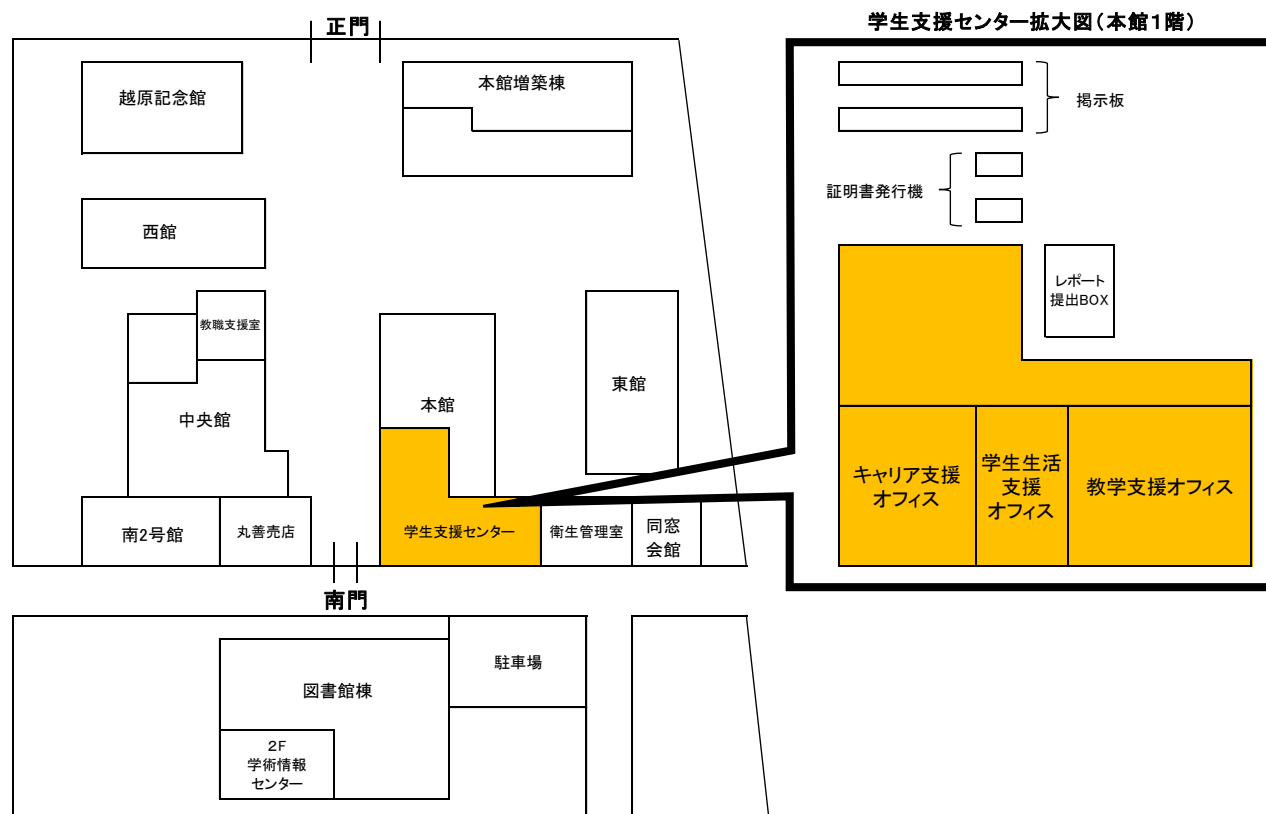
大学の勉学には、これまでの小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たなければならないということです。その際に、この『履修の手引き』が大きな役割を果たします。

《共通編》は、授業・履修・試験などの説明です。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。単位を修得するためには「履修登録」をした上で、授業に出席しなければなりません。履修登録には期日が決められている上、履修計画を立ててから手続きをする必要があります。この手引きをよく読んで、提出期限に遅れたり、手続き方法を間違えたりしないよう十分注意してください。提出が遅れると授業が受けられません。そのほか、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず熟読してください。

《学科編》には、教育課程(カリキュラム)が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画(シラバス)」とともに活用してください。免許や資格については、《学科編》の「4.免許・資格」で詳しく説明しています。

学生の皆さんは、この『履修の手引き』を卒業まで活用して、単位数が不足して卒業できないということのないように十分注意してください。また、不明点がある場合は、指導教員や学生支援センター・教学支援オフィスでたずねてください。

II. 学生支援センターの場所



III. 授業について

1. 授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講……………1 年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講……………原則として前期あるいは後期の半年間授業が行われます。
- 3) 集中講義……………上記の通年または半期開講科目が、教育上特別な理由があると認められる場合、あるいは特別の事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間で集中的に授業が行われます。

2. 授業時間割

ポータルサイトで授業時間割の確認ができます。また、本館1階掲示板にも掲示します。(事情により授業時間割・教室を変更したときも、ポータルサイト(教務掲示一覧)と掲示板でお知らせします。)

授業等の日程は、学事カレンダーとしてポータルサイトと大学 Web サイトに掲載しています。

ポータルサイト: TOP (HOME) > 年間予定 > 学事カレンダー

大学 Web サイト: HOME > 在学生の方へ > 年間スケジュール

3. 授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

1・2 限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0
3・4 限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0
5・6 限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
7・8 限	1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0
9・10 限	1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0

1・2・3 限	9 : 0 0 ~ 1 1 : 2 0
2・3・4 限	9 : 5 0 ~ 1 2 : 1 0
5・6・7 限	1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 2 0
7・8・9 限	1 4 : 4 0 ~ 1 7 : 0 0

大学の授業時間は、通常 45 分を「1 時間」の授業とみなし、「2 時間」(=90 分)の授業が基本となります。

4. 授業科目の種類

授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ

1 単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

講義科目(1 単位に必要な授業時間数は 15 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 8 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 4 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 30 回…通年科目

演習科目(1 単位に必要な授業時間数は 30 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 30 回…通年科目

実験・実習・実技科目(1 単位に必要な授業時間数は 45 時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ 1、2 に必要な授業時間数は 30 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 3 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 3 時間の授業) × 30 回…通年科目

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、各学科の「教育課程」の表を参照してください。

5. 休講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、本館 1 階掲示板に掲示およびポータルサイトから連絡します。
- 2) 休講掲示やポータルサイトからの連絡がなく、授業開始時刻から 30 分以上経過しても授業担当教員が現れない場合は、学生支援センター教学支援オフィスに連絡して、指示を受けてください。
- 3) 地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は次のとおり取り扱いします。

災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等		発表・発令等の時間	本学の講ずる措置
「南海トラフ地震臨時情報」の発表	「南海トラフ地震臨時情報（調査中・巨大地震注意・巨大地震警戒）」が発表された場合	発表された時刻	発表時点でそれ以降の授業は休講 授業再開などその後の対応は、大学 Web サイトやポータルサイトで案内します。
	「南海トラフ地震臨時情報（調査終了）」	午前 6 時現在 発表されている場合	平常通り授業
		午前 10 時現在 発表されている場合	午後から授業
「特別警報」または「暴風警報」の発令	名古屋市に発令された場合	午前 6 時現在 発令されている場合	午前中休講
		午前 10 時現在 発令されている場合	全日休講
避難指示（警戒レベル4）の発令	名古屋市瑞穂区汐路学区に発令された場合	午前 6 時現在 発令されている場合	午前中休講
		午前 10 時現在 発令されている場合	全日休講
交通ストライキ	名古屋市営の交通機関、名鉄、JR のいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合（その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する）	午前 6 時現在 ストが継続している場合	午前中休講
		午前 10 時現在 ストが継続している場合	全日休講
上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想されるときは、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。			

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。（授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センター教学支援オフィスで必要な手続きをすることにより欠席にはなりません。）

- ①名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ②名古屋市瑞穂区汐路学区以外の居住者の居住区域に避難指示(警戒レベル4)が発令された場合
- ③災害等により、交通機関が不通になった場合（計画運休含む）
- ④上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～④により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センター教学支援オフィスで所定の手続きをすれば、追試験を受験できます。

6. 補講

休講により規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次のいずれかの方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は、ポータルサイトの年間予定タブに掲載されている「学事カレンダー」で確認してください。
- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、本館 1 階掲示板に掲示し、ポータルサイトから連絡します。

※ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。メッセージ転送設定をすると、登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法是、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

＜ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > ポータルサイトの使い方

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf

7. 出席確認

講義室の出入口付近に、出席管理システムと連携した学生証を利用した認証のためのカードリーダーが設置されています。カードリーダーが設置されている教室では、学生証をかざして出席の認証を行ってください。

出席管理システムでは、出席状況の確認や欠席届を提出することができます。随時、出席状況を確認し、登録内容に誤りがあった場合は、授業担当教員に申し出てください。

出席管理システムと学生証による認証方法については、以下のマニュアルを確認してください。

＜出席管理システムへのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システム

URL: <https://attendance.cn-management.jp/asp/student/index.php>

＜出席管理システム操作マニュアルへのアクセス＞

ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システムマニュアル

URL: [https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(S\).pdf](https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(S).pdf)



＜出席管理システム(よくある質問)へのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システム(よくある質問)

URL: [https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(SQ&A\).pdf](https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(SQ&A).pdf)

- ◆ 学生証の認証による出席の確認は、授業開始 9 分前から可能です。
- ◆ 学生証を忘れた場合、または学生証の認証が正しくされなかった場合、授業開始前に授業担当教員に申し出てください。
- ◆ 学生証が登録されていない場合、カードリーダーにかざすと「登録がありません」とメッセージが流れます。
- ◆ 機器の不調や故障の場合は、学生支援センター・教学支援オフィスに連絡してください。

8. 欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に準ずる P.18 参照)で授業を欠席する場合は、「欠席届」を授業担当教員に提出してください。「欠席届」は、出席管理システムから提出できます。学生支援センター教学支援オフィスで配布している欠席届の用紙に記入して提出することもできます。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは、次のとおりです。
 - ① 授業開始時間に遅れた者は、遅刻として取り扱います。
 - ② 授業終了まで受講していない者は、早退として取り扱います。
 - ③ 遅刻及び早退は、計 3 回をもって欠席 1 回とみなします。
 - ④ 1 回の授業時間の 3 分の 1 以上(講義・演習科目は 30 分以上、実験・実習科目は 45 分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

9. オフィスアワー

教員は学生からの様々な質問に応じるための時間「オフィスアワー」を設けています。オフィスアワーの時間帯には教員が研究室に在室し、授業内容やその他学修に関する様々な相談を受け付けています。各教員のオフィスアワーの設定時間は、教員によって異なりますので、「オフィスアワー一覧表」で確認してください。ポータルサイトの「オフィスアワー」からも確認できます。各教員の研究室の場所も記載されています。

＜オフィスアワー一覧表へのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > My 時間割 > オフィスアワー

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/office_hour/office_hour.pdf

10. ポータルサイト

ポータルサイトとは、大学からのお知らせや履修登録、成績発表など、大学生活を送る上で必要な様々な機能が集約されたサイトです。手続きなどの重要なお知らせを見落とさないように気を付けてください。履修登録漏れ、試験などに係る申請不備による不利益はすべて自己責任となりますので、ポータルサイトからの配信はこまめに確認しましょう。

＜ポータルサイトへのアクセス＞



大学 Web サイト > 在校生の方へ > 学生ポータルサイト

URL: <https://portal.nagoya-aoi.ac.jp/campusweb/top.do>

＜ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス＞

ポータルサイト: TOP (HOME) > ポータルサイトの使い方

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf



11. 合理的配慮

授業の受講や試験時に障がいサポート(合理的配慮)を希望する場合は、衛生管理室に申し出てください。ただし、対応可能な配慮は科目により異なります。

IV. 履修について

1. 単位制度

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1 単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて 45 時間の学修時間を必要とします。

2. 卒業要件

大学を卒業するためには、4 年以上在学し、学科ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、下表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

卒業に必要な単位数 ※括弧内の数字は、必修科目の単位数(内数)

【生活環境学部】

学科	全学共通科目		学科 専門科目	自由 選択科目	合計
	人間形成科目 一般教育科目 芸術科目 情報・表現科目 体育・健康科目	外国語科目			
生活環境学科	21(3)以上	8(4)以上	75(22)以上	20 以上	124(29)以上

自由選択科目

科目区分の制限はありません。各科目区分で定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位数で充足されます。

単位互換科目

単位互換制度を利用して取得した単位は、「自由選択科目」に算入されます。詳しくは、P.17「14.単位互換制度」を確認してください。

3. 履修登録単位数の上限設定(CAP 制)

各学期・年間の履修登録をする際に、履修登録単位数の上限を設定しています。履修登録単位数の上限を設定することを CAP 制といいます。

履修登録単位数の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1 単位を修得するにあたって必要な学修時間 45 時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

1) 全学部学科で上限単位数から除外する科目等

①入学前の既修得単位、大学・短大以外の教育施設等における学修により単位認定された科目

②全学共通科目:「建学のこころ」

2) 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目及び名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。

3) 学長が特に必要と認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。

4) 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。

なお、年間で上限単位を定めており、前期、後期ごとの履修登録単位数の配分については弾力的に扱います。

学科の履修指導に従ってください。

学部	学科	履修登録の上限単位数								その他上限単位数から除外する科目
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
生活環境学部	生活環境学科	49		46		41		30		「異文化コミュニケーション」、 教職に関する科目

4. 履修登録と手順

具体的な日程は、オリエンテーションで配布する「Web 履修登録日程表」を参照してください。

オリエンテーション

- ・新入生オリエンテーション、在学学生オリエンテーションで履修登録の説明を聞きます。

履修計画

- ・「履修の手引き」や「シラバス」、「時間割表」を参照し、必修科目や資格取得に必要な科目を確認して、1年間の履修計画を立てます。
- ・1年間に履修できる単位数には上限があります。(履修の手引きP.9参照)
- ・科目によって、履修するための条件(前提科目)があります。そのため、資格取得に必要な専門科目を全て履修してから、全学共通科目の履修を計画しましょう。

Web履修登録

- ・履修計画をもとに、ポータルサイトで履修登録を行います。前期に後期科目の履修登録も行います。
- ・ポータルサイトで履修登録できない科目は、学生支援センター教学支援オフィスにある「特別履修届」に記入し、指導教員の確認を受けて提出します。
- ・履修登録期間は、受講する科目を検討する期間です。履修予定科目には初回の授業から出席してください。
- ・後期の履修登録期間は、後期科目のみ追加・削除が可能です。

資格申請

- ・取得を希望する免許・資格を申請します。
- ・資格申請をすることで、卒業学年時に資格取得見込判定の確認ができます。

一次抽選

- ・履修者数に定員のある科目では抽選により履修者を決めます。
- ・抽選科目の履修を希望する場合は、一次抽選日までに履修登録を行い、抽選結果を必ず確認してください。抽選結果が決まる前の授業にも出席してください。
- ・後期は、履修者数に余裕がある抽選科目の追加登録(先着順)が可能です。(後期は抽選を行いません。)
- ・教科書は返品ができないので、当選してから購入してください。

二次抽選

- ・履修者数に余裕がある科目の二次抽選に申し込むことができます。

履修確認

- ・履修計画とWeb履修登録した科目が合っているか、履修登録漏れがないか確認します。
- ・履修登録の修正が必要な場合は、「履修登録修正願」に記入し、指導教員の確認を受けて、学生支援センター教学支援オフィスへ提出します。

履修登録科目の確定

- ・履修登録が確定します。

5. 履修登録の留意点

- 1) 「履修の手引き」で卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、「授業計画(シラバス)」を熟読して1年間の履修計画を立ててください。

(注)履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合は、GPAに影響しますので注意してください。

- 2) 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。
- 3) 登録ミス、登録漏れのないように注意してください。
- 4) 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ずポータルサイトで受講可能か確認してください。
- 5) 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。
- 6) 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。
- 7) 授業科目については、履修できる学年(配当学年)が決まっています。下級学年に配当されている授業科目は履修できますが、上級学年に配当されている授業科目は履修できません。なお、配当学年において、卒業必修科目を修得できなかった場合、次年度以降の該当科目の履修登録については、学生支援センター教学支援オフィスでの手続きが必要となります。

6. 特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、「特別履修届」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。

「特別履修届」は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

- 1) 全学共通科目[必修科目]を他学科で下級履修する場合
- 2) 全学共通科目[外国語科目]を他学科で履修(あるいは下級履修)する場合
- 3) 専門科目を他クラスで履修(あるいは下級履修)する場合
- 4) 読替を要する科目を履修する場合

7. 免許・資格の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録は、履修登録期間中にポータルサイトの「資格申請・取消」から必ず行ってください。

また、卒業学年の後期履修登録期間に登録済の免許・資格を取り消す場合は、「免許・資格申請書」を提出してください。申請書は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

8. 履修登録時のチェックシート

履修登録および資格申請の追加・削除は、履修登録期間以外は原則認められません。そのため、履修登録時は、下のチェックシートを活用して、慎重に手続きを行ってください。

項目	内容	チェック欄			
		1年次	2年次	3年次	4年次
		前期 後期	前期 後期	前期 後期	前期 後期
① 履修計画	現在の単位修得状況、卒業要件、資格要件を確認して、1年間の履修計画を立てましたか？（後期では、前期成績を確認して計画の見直しをしましたか？） ※履修できる単位数には上限があります。（P.9 参照）	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
② 履修登録、 免許・資格申請	専門科目の選択科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	集中講義（実習関連・卒業研究などを含む）は登録しましたか？ ※特に、後期の集中講義科目は履修登録忘れが起きやすいです。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	全学共通科目および教職科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	希望する免許・資格の申請登録はしましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】進級・卒業および資格取得の見込判定結果を確認しましたか？ ※判定が「可」にならないと、見込証明書の発行はできません。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】前年度単位修得できなかった科目など、Web 履修登録ができなかった科目は、学生支援センター教学支援オフィスで申請しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
③ 申請内容確認	Web 履修登録完了後、ポータルサイトに「履修登録受付完了」メッセージが届きましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	抽選科目の結果（当落）を確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	履修登録修正期間に、ポータルサイトの「My 時間割」で申請内容が反映されているか確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】履修登録修正期間に「履修登録修正願」を提出した場合、後日「My 時間割」に申請内容が反映されていることを確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓

9. シラバスの見方

シラバスはポータルサイトからアクセスできます。授業を選択する時には、シラバスを熟読してください。

シラバス参照

更新履歴画面へ戻る

お気に入りに追加する

科目名	建学のこころ
講義コード	
担当者	越原 もゆる
学年	1年
対象学科・専攻	
クラス	
単位数	1
開講時期	前期
授業形態	講義
備考	

基本情報

科目名、授業担当教員、学年、対象学科、単位数、開講時期など

授業の目的と概要

科目ナンバリングと授業の教育目標を確認できます。

授業の目的と概要	UAO 0 00 L 1 01 Z (1) 本学創設者の生家に隣接する越原学舎で学ぶことにより、学園訓「親切」の意義と「建学の精神」を理解し、本学の教育理念・目的について認識を深める。 (2) 共同生活を通じて自己啓発するとともに、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、4年間の学修の目標を立て、その設計を確かなものとする。
授業の到達目標	【DP1】 本学創立の歴史や時代背景を理解し、学園訓「親切」の意味を深く考え、創立者の現代社会を生きる学生へのメッセージを掴み取ることができる。 【DP2】 共同生活を通じて自己啓発に努め、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、大学4年間の学修の目標を立てることができる。 【DP3】 主体的に自分の役割を果たすとともに、多様な価値観を持つ他の学生と協働することができる。
授業計画概要	岐阜県東白川村で越原(おっばら)学舎研修を行います。
授業計画	第1回 越原学舎研修のオリエンテーション
学修上の留意事項	・「建学のこころ」は、新入生オリエンテーションから始まる。 ・越原記念館巡覧や越原(おっばら)研修への準備段階でも主体的な参加が望まれる。 ・越原学舎では共同生活を楽しく進めるとともに、自己規律の育成に努めること。
授業外学修の指示	・越原学舎研修の前に、「美濃少女」、「もえのぼる」、「建学のこころ(越原研修のしおり)」等を熟読しておくこと。 ・1回の授業につき270分を基準として学修すること。
学修eポートフォリオ	学修eポートフォリオおよび教職「履修カルテ」の対象科目ではありません。
成績評価基準	【DP1】については、レポートの内容から評価する(20%)。 【DP2】については、レポートの内容から評価する(40%)。 【DP3】については、越原学舎研修準備ならびに研修時の主体性、協働性から評価する(40%)。 レポートは採点後、返却する。 各々の評価は総合的学習評価ルーブリックに基づいて行い、合計100%を満点としてS,A,B,C,D評価は大学の基準による。
テキスト	
テキスト(自由入力)	越原春子日誌「美濃少女」(みのおのとめ)、越原一郎(編)、学校法人越原学園 越原春子伝「もえのぼる」 南部 弘(著)、学校法人越原学園 「大学で学ぶということ」 名古屋英大
参考資料ファイル	建学のこころ成績評価基準.pdf
担当者の実務経験	なし
参考図書	

授業の到達目標

授業終了時に身に付く能力、何ができるようになるかを確認できます。またディプロマポリシーとの関連を確認できます。

授業計画

各回の授業内容を確認できます。授業担当者が複数人の場合、授業回数ごとの担当教員が記載されています。

学修上の留意事項

授業を履修する上で必要な取り組みと、条件(前提科目)を確認できます。

授業外学修の指示

授業以外に必要な予習・復習の学修内容と時間が記載されています。

成績評価基準

成績評価の基準と割合が記載されています。

テキストと参考図書

・テキスト:
授業で使用する教科書です。購入してください。
・参考図書:
授業に関連する参考資料です。図書館に所蔵されています。

更新履歴画面へ戻る

印刷

10. 教育課程

教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目と学科専門科目に分けて編成されており、それぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目の区分には必修科目と選択科目があり、体系的に修得できるように各年次に配当されています。授業科目を選択する場合は、系統図(カリキュラムツリー)をよく見て考えてください。例えば、科目間の矢印や、1 や 2 と番号が振られている科目を 2 から先に選択すること、また、講義の前に演習や実習を選択することは避けてください。

必修科目

教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目

教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目

- 上記のほか各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、卒業の要件に含まれない科目もありますが、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。

11. 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身に付けてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。詳しくは《学部編》で確認してください。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー(学位授与の方針)と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

12. 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは、学修の段階や順序等を英数字で表示することにより、教育課程の体系をわかりやすくし、履修登録時の目安とするために設定しています。科目ナンバリングのコードは、以下の構成となっています。

例)大学全学共通科目「日本国憲法」の場合

UA0 0 32 L 2 06 L - N2N3T1T3T4T5T6T7
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

①と②の間の「0」は予備コードです。

①学部・学科コード

学部・学科	コード	学部・学科	コード	学部・学科	コード
大学全学共通科目	UA0	健康科学部学科間共通科目	HB0	医療科学部学科間共通科目	MB0
生活環境学部生活環境学科	EE0	健康科学部健康栄養学科	HH0	医療科学部理学療法学科	MP0
生活環境学部教職課程	ET0	健康科学部看護学科	HN0	医療科学部作業療法学科	MO0
		健康科学部教職課程	HT0	児童教育学部児童教育学科	CC0

②分野コード(数字 2 文字)

図書館の分類表と同じ分類(日本十進分類法の 2 次区分表)を使用し、科目の分野を表現しています。

③授業形態

授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード
講義	L	演習	E	実験	M	実習	T	実技	P

④科目分類(数字またはアルファベット 1 文字)

各学科の教育課程の科目分類ごとに区分しています。全学共通科目は数字 1 文字、専門科目はアルファベット 1 文字です。

⑤授業識別番号(数字 2 文字)

科目分類と合わせて、授業を識別するための個別コードです。

⑥レベル

レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード
基礎的な内容	L	発展的な内容	M	卒論・実習系	H	その他	Z

⑦資格コード

資格取得に関係する科目には、資格コードが付与されています。

資格名称	コード	資格名称	コード	資格名称	コード
一級建築士受験資格	A1	保育士	H1	幼稚園教諭一種免許状	T1
二級建築士・インテリアプランナー受験資格	A2	秘書士	S1	幼稚園教諭二種免許状	T2
テキスタイルアドバイザー	C1	医療秘書実務士	S2	小学校教諭一種免許状	T3
フォーマルスペシャリストブロンズライセンス	C2	情報処理士	J1	中学校教諭一種免許状(国語)	T4
ドレメ式教員認定	C3	上級情報処理士	J2	中学校教諭一種免許状(家庭)	T5
栄養士免許証	E1	ビジネス実務士	J3	高等学校教諭一種免許状(家庭)	T6
管理栄養士国家試験受験資格	E2	上級ビジネス実務士	J4	栄養教諭一種免許状	T7
食品衛生監視員及び管理者任用資格	E3	看護師国家試験受験資格	N1	理学療法士国家試験受験資格	R1
フードコーディネーター	F1	保健師国家試験受験資格	N2	作業療法士国家試験受験資格	R2
フードスペシャリスト	F2	養護教諭二種免許状	N3		

13. 開放科目について

開放科目とは、資格の専門性をより高めるために、他学部・他学科の専門科目を開放し、資格に活かせる知識が取得できるよう、履修および単位修得可能にした科目です。

開放科目は以下のとおりです。

開講学科	授業科目	学年	開講期	形態	単位数
生活環境学科	調理学	1	前期	講義	2
	被服構成学	1	後期	講義	2
	住居管理学	3	前期	講義	2
理学療法学科	地域理学療法学	2	前期	講義	2
	理学療法治療学特論Ⅰ（健康増進・予防）	2	後期	講義	1
	理学療法治療学特論Ⅳ（脳機能）	3	前期	講義	1
理学療法学科 作業療法学科	解剖学Ⅰ	1	前期	講義	2
	生理学Ⅰ	1	前期	講義	2
	リハビリテーション概論	1	後期	講義	1
児童教育学科	コミュニケーション論	1	後期	講義	2
	日本文化概論	1	前期	講義	2

※上記科目の上級履修はできません。また、時間割編成の配慮はしません。開講期は変更になる可能性があります。

開講時期、時間割はポータルサイトの時間割で確認してください。対象科目には【開放】と記載されています。
履修条件および手続きは以下のとおりです。

<対象学生>

1年生後期以降の学生（在学2年以上の場合は、前期から履修可能。）

<履修制限>

- 1) 直前学期のGPAが2.0以上
- 2) 履修上限単位数に含まれます。（「自由選択科目」のない学科を除く）

<修得単位>

修得した単位は、「自由選択科目」に算入されます。また、成績評価はGPAの算出対象となります。（「自由選択科目」がない学科は、卒業要件単位には含まれませんが、履修は可能です。）

<手続き方法等>

上記科目の履修を希望する場合は、履修希望科目の開講期の履修登録期間に、「開放科目履修願」に記入して、学生支援センター教学支援オフィスへ提出してください。

<履修の可否>

手続き後、所属学科の確認と開放科目を開講している学部の教授会で審議されます。審議結果は、指導教員から前期5月下旬、後期10月下旬に連絡があります。（審議結果の連絡があるまで、授業は出席してください。）

14. 単位互換制度

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋葵大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

1) 名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位修得が可能です。下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

①名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

授業科目	授業形態	単位数
簿記演習 3	演習	1

②履修時期

1 年生後期

③単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の自由選択科目の単位数として算入されます。

④履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4 月第 2 木曜日まで

後期科目：9 月第 2 木曜日まで

2) 愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位修得が可能です。詳しくは、本館 1 階掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認して手続きしてください。

URL: <https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/>

15. 海外留学

留学先で修得した授業科目の単位は 60 単位を上限として、本学で修得した単位として認められます。単位の認定を希望する場合は、留学前に学科の先生に相談して指導を受けてください。

海外留学については、学生生活の手引き「翔」または、大学 Web サイトの「留学制度・奨学金制度」を参照してください。海外交流室または学生支援センター学生生活支援オフィスに相談することもできます。

<留学制度・奨学金制度へのアクセス>



大学 Web サイト>在校生の方へ>留学制度・奨学金制度

URL: <https://www.nagoya-aoi.ac.jp/students/ryugaku.php>

V. 試験について

1. 試験の種類と方法

試験の種類には、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

2. 期末試験

1) 期末試験は、前期末に行うものを前期試験、後期末に行うものを後期試験といいます。

2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

3. 追試験

1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。

① 試験時間割に掲載された筆記試験を実施した授業科目

② 期末試験に代えて授業担当教員が随時に行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目

2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。

3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。

4) 追試験の受験は、欠席理由が「4. やむを得ない理由を証明する書類」の項目に記載されている欠席理由のいずれかに該当し、当該理由を証明するに足る書類の提出が必要です。①から⑦は願い出の受理により追試験の受験が認められますが、⑧は教授会および学長が許可した場合に受験が認められます。

4. やむを得ない理由を証明する書類

欠席理由		提出書類
①	親族の危篤、死亡	理由を証明する書類または写し
②	不慮の事故または災害	事故等を証明する書類
③	病気または負傷	医療機関発行の診断書
④	公共交通機関の事故または遅延	事故又は遅延証明書
⑤	学則第 14 条に定める資格を取得するために必要な校外実習	証明書不要
⑥	就職試験(会社訪問は除く)の受験	本学所定の受験証明書
⑦	期末試験受験科目の実施日時の重複	本学所定の試験重複届
⑧	その他①から⑦に準ずるものとして学長が認めたもの	理由を証明する書類

5. 再試験

1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期および通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。

再試験期間は、学事カレンダーで確認できます。なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。

2) 再試験を受験するためには、所定の手続きが必要です。

- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験と再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目の場合は、前期・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。
- 4) 校外実習(教育実習・臨地実習など)が不合格となった場合の再試験は実施しません。

6. 追試験・再試験手続一覧

	追試験		再試験	追試験・再試験で 不合格科目の再試験 (4年生のみ)
	欠席理由①～⑦	欠席理由 ⑧		
提出書類	試験欠席届＋証明書類＋追試験申込書		再試験申込書＋ 再試験願出書	再試験申込書＋ 再試験願出書
提出期限	指定された期日 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡) 追試験申込書は 受験許可後に提出	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)
出願科目数	上限なし		上限なし	前・後期それぞれ 1科目
提出先	学生支援センター教学支援オフィス			
受験手数料	1科目につき 1,000 円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要)		1科目につき 2,000 円	1科目につき 2,000 円

7. 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 履修登録をしていない授業科目。
- 当該授業科目の規定授業時間数(半期8回、15回、通年30回)の3分の2以上出席していない者。
- 学生証を所持していない者。
- 試験開始後15分以上遅刻した者。
- その他、教授会において受験資格がないと認められた場合。

8. 受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

<受験態度>

受験の際は、終始公正な態度を保ち、少しでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

<監督者の指示の遵守>

試験室においては、常に監督者の指示に従う。
指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

<学生証の提示>

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターにおいて仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料 1,000 円が必要となる。
また、学生証を紛失した場合、願い出れば当日中に再発行される。(手数料 1,000 円が必要)

<不正行為>

受験の際、万一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第 46 条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

<所持品の扱い>

試験中は学生証、筆記用具(特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ)、監督者が許可したもの以外は机上に置かない。その他の手荷物も机の中に入れないで、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

<参照許可物件>

問題用紙に参照許可物件(テキスト、ノート、辞書等)が明示されている場合のみ、参照が許可される。

<遅刻>

遅刻は試験開始後 15 分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。
なお、遅刻により受験できなかった科目は欠席となる。

<退室>

試験開始後 30 分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

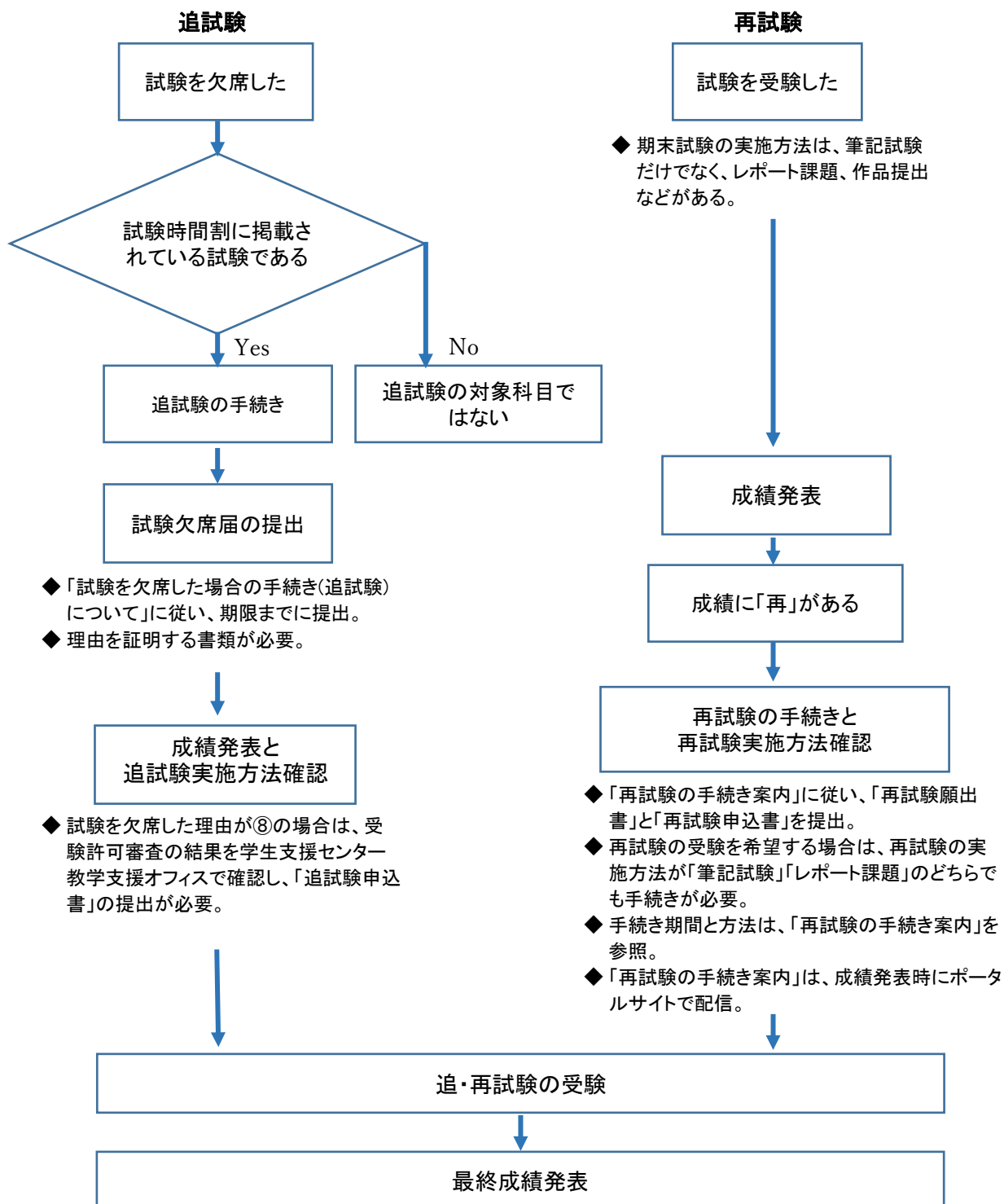
<再入室の禁止>

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

<答案用紙>

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや、白紙のものも提出する。

9. 追試験・再試験の手続きの流れ



◆卒業学年に限り、追再試の再試(前後期各1科目:必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目に限る)を実施する場合がある。最終成績発表日に手続きが必要。

◆「試験規程」は、ポータルサイトの学内リンクタブの「規程一覧」を参照。

VI. 成績評価について

1. 成績の評価・単位の認定

授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、S, A, B, C, 不とし、C 以上を合格として当該授業科目の単位を認定します。なお、100 点満点に換算した点数の評価基準は、次のとおりとします。

ただし、当該学期学費未納者については、学費完納まで単位認定を保留します。

成績評価基準

合 格	100 点～90 点	S
	89 点～80 点	A
	79 点～70 点	B
	69 点～60 点	C
不合格	60 点未満	不
不合格 (再試験)	60 点未満	再

学生が期末筆記試験を欠席し、追試験の手続きをした場合

(追試験)

合 格	100 点～90 点	S
	89 点～80 点	A
	79 点～70 点	B
	69 点～60 点	C
不合格	60 点未満	不
欠 席		不

(再試験)

合 格	60 点以上	C
不合格	60 点未満	不
欠 席		不

単位
認定

単位
不認定



※卒業年次学生を対象とする

—再試験—

—追試験—

失 格	失
-----	---

— 受験資格喪失(原則として規定授業時間数の 2/3 以上出席していない者)

認定単位	認
------	---

— 他の大学等において修得した単位、編入学生等の認定単位

2. 成績の通知

期末試験及び追・再試験の結果は、各学期の成績発表日にポータルサイトの成績照会で各自確認してください。既修得単位科目の成績(成績の累算)も成績照会で確認できます。

3. 成績の問い合わせ

成績についての質問がある場合は、成績発表後 3 日以内(土・日・祝日除く)に学生支援センター教学支援オフィスに申し出て、「成績評価についての質問」に質問事項を記入し提出してください。

4. GPAについて

GPAとは、Grade Point Average(グレード・ポイント・アベレージ)の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント(GP×単位数)の合計を履修登録した総単位数で除した 1 単位あたりの成績平均値のことです。GPAを知ること、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画が適切に立てられます。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA評価平均が下位 25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準
- 5) 成績上位者の表彰の選抜基準
- 6) 退学勧告を行う判定基準

<GP(グレード・ポイント)>

最終成績評価(S:4、A:3、B:2、C:1、不認定:0、失格:0、認定:－)

<不合格科目等の取り扱い>

成績評価が不合格の科目、失格となった科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外になります。

<GPAの算出式>

各科目の成績評価を成績値(GP)に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

VII. 規程

学則や各種規程は、ポータルサイトに掲載しています。

<規程一覧へのアクセス>



ポータルサイト: TOP(HOME) > 学内リンク > 規程一覧

URL: <https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/kitei/kitei-index.htm>

VIII. 教務関係の用語集

<教務関係用語集へのアクセス>



ポータルサイト: TOP(HOME) > 学内リンク > 教務関係の用語集

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/rishuyoko/kyomu_yogo.pdf

生活環境学部

1. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

生活環境学部

生活環境学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学位授与の規定は、学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門的知識と技能を身に付け、能力を活かした専門的職能人としての使命感と責任感を持つ者であることが重要です。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができる者に学位を授与します。

生活環境学科

1. 達成目標

住、衣、食とビジネスや情報等の専門的な知識や技能を習得し、生活環境に関する思考力を身に付け、学問的に発展させ、その成果を社会に活かすことのできる人材となることを達成目標としています。

2. 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような能力を有します。

- 知識・技能: 住、衣、食とビジネス・情報の本質を理解できるような生活環境学に関する知識や技能を身に付けている。
- 思考力・判断力・表現力: 生活環境に関する問題を把握し、解決するための思考力と判断力を身に付け、生活環境に関する自分自身の考えを他の人々に伝えることができる表現力がある。
- 主体性・多様性・協働性: 自分の知識や技能に基づき、主体的に探究し続けることができる能力、そして、必要な使命感や責任感を持ち、自ら成長しようとする姿勢および態度を身に付けている。

2. カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

生活環境学部

生活環境学部は、建学の精神であり、学園の信条である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人を育成する」ことを第一の目的としています。この目的を達成するため、学士課程では、活きたコミュニケーション能力をもち、それぞれの専門において社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。まずは、学士力向上を目標とした教養科目、外国語科目などを他学部と共通で設け、幅広い視野に立つ豊かな人間性を育成します。次に、生活環境学に関わる基礎科目を開設し、人間生活と環境の関係を追究することによって、生活環境学の視点から必要となる力を身に付けることを目的とした専門科目を体系的に配置します。

生活環境学科

1. 教育課程の編成目標

- (1) 住領域では、建築・インテリア設計、それらを実現する為の計画・構造・設備などの専門的な知識と技能を習得し、幅広い視点から問題解決を目指して豊かな生活環境を創造し、実践する能力を養います。
- (2) 衣領域では、人間に最も身近な環境として被服を捉え、材料・加工・整理、企画・設計・生産、流通・消費などの専門的な知識と技能を習得し、アパレル業界やファッションビジネスで活躍できる能力を養います。
- (3) 食領域では、食品・栄養・調理など食に関する専門的な知識を習得し、外食産業界で活かせる感性、技術および企画力を身に付け、フードスペシャリストやフードコーディネーターとして活躍できる能力を養います。
- (4) ビジネス・情報領域では、ビジネスおよび情報化に関わる専門的な知識と技能を習得し、賢い消費者であるとともに、多様な分野で通用するキャリア能力を育成し、生活環境に関わる諸問題の解決能力を養います。
- (5) 教職領域では、生活環境の各領域(住、衣、食、ビジネス・情報)の基礎を身に付け、かつ得意領域に秀でた家庭科教員を目指し、高い教育能力を養います。

2. 教育課程の編成と特色

- (1) セメスター制と GPA
 1. セメスター制を導入し、1年を前期、後期に分け、半期で完結する授業を行います。
 2. これにより学生は、半期ごとに時間割を見直すことが可能となり、受講の選択の幅が広がることで、さらに意欲的な学修機会(留学や研修など)の組込みが可能となります。
 3. GPA を活用して学生指導を適切に実施します。
- (2) 共通科目の設定・充実
 1. 学びの導入として、1年次に初年次セミナーと初年次演習を履修し、大学生活における学修の目標を見定めて専門科目を履修する目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。
 2. 「人間形成」「一般教育」「外国語」「情報・表現」などのカテゴリーに分けた全学共通科目と生活環境学の基礎となる科目を配置します。
- (3) 履修モデルの具体化
 1. 「建築・インテリア」「ファッション」「フード」「ビジネス・情報」そして「教職」の履修モデルを設け、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーにより分かりやすく示しています。

2. 住領域、衣領域、食領域、ビジネス・情報領域に関わる2つ以上の領域に強い人材育成が可能な科目配置を行います。

- ①住領域に強く、二級建築士、一級建築士の受験資格取得を支援し、目標が達成できる科目配置
- ②衣領域に強く、2級テキスタイルアドバイザー等の資格取得支援のための科目配置
- ③食領域に強く、フードスペシャリストやフードコーディネーターの資格取得支援のための科目配置
- ④ビジネスや情報領域に強く、そのエキスパートとしての高い専門性と確かな技術の修得と、専門資格取得支援のための科目設置
- ⑤家庭科教員(中学校・高等学校)となるための教職課程の設置と科目配置

(4) 専門科目群

専門科目は、建築・インテリア科目、ファッション・テキスタイル科目、栄養・フード科目、ビジネス・情報科目において、必修・選択別および講義・演習・実験・実習の授業形態別に設置しています。

3. 学修成果測定

- ルーブリックによる学修成果の可視化
- 学修ポートフォリオによる学修成果の蓄積
- 生活環境学全般に関わる学修達成度調査、専門知識・技能に関する「卒業研究(発表・論文・制作)」の公表

4. 学修環境

学修成果を生み出すために以下のような学修環境を提供します。

- 産学行政連携による PBL などのアクティブラーニングの実施
- 異文化コミュニケーション(海外研修)
- 少人数制を重視した教育(アカデミックスキルズ、卒業研究ゼミナールなど)
- 演習・実験・実習による、内容の深い理解と体験
- スキル育成のための入門的な科目(初年次セミナー、初年次演習、情報、語学など)
- 社会における体験と就職活動のための状況認識(体験型学習プログラム)

特に、理論から演習・実験・実習という科目の配置によって、内容の理解、体験、スキル獲得を行い、より高い技能を確実に身に付けることができます。また、3年次、4年次に「アカデミックスキルズ」「卒業研究」を連続履修して卒業論文(選択)を作成し、さらに、ディプロマポリシーに沿った資格取得支援プログラムも設けています。

3. 教育課程

全学共通科目

授 業 科 目		単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	教 員 免 許 状	情 報 処 理 士 上 級 情 報 処 理 士	備 考
		必 修	選 択		1年		2年		3年		4年					
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
科 人 間 形 成	建学のこころ	1		講義									－			
	ジェンダー論		2	講義									2			
	キャリア入門		2	講義									2			
一 般 教 育 科 目	哲学の方法		2	講義									2			
	心のしくみ		2	講義									2			
	文学の表現と鑑賞		2	講義									2			
	歴史に学ぶ		2	講義									2			
	国際事情		2	講義									2			
	日本国憲法		2	講義									2	◎		
	くらしの経済		2	講義									2			
	生活と地理		2	講義									2			
	数学の世界		2	講義									2			
	一般化学		2	講義									2			
	生命のしくみ		2	講義									2			
	生活の物理		2	講義									2			
	地球環境と人間		2	講義									2			
	初年次セミナー	2		講義									2			
	初年次演習		1	演習									2			
芸 術 科 目	音楽		1	演習									2			
	美術		1	演習									2			
	書道		1	演習									2			
外 国 語 科 目	Basic English 1	1		演習									2	◎		
	Basic English 2	1		演習									2	◎		
	Advanced English 1		1	演習									2			
	Advanced English 2		1	演習									2			
	総合英語A－1	1		演習									2	◎		
	総合英語A－2	1		演習									2	◎		
	総合英語B－1		1	演習									2			
	総合英語B－2		1	演習									2			
	初級フランス語1		1	演習									2			「初級フランス語2」または「初級中国語2」は、「初級フランス語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」が「失格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。「中級フランス語」「中級中国語」は、「初級フランス語2」「初級中国語2」の単位を修得していないと履修できません。
	初級フランス語2		1	演習									2			
	中級フランス語		1	演習									2			
	初級中国語1		1	演習									2			
	初級中国語2		1	演習									2			
中級中国語		1	演習									2				
科 情 報 ・ 表 現	情報処理演習1		1	演習									2	◎	◎	
	情報処理演習2		1	演習									2	◎	◎	
	日本語表現法1		1	演習									2			
	日本語表現法2		1	演習									2			
健 康 科 目	健康科学		2	講義									2			
	スポーツ1		1	実技									2	◎		
	スポーツ2		1	実技									2	◎		

- (注) 1. 教員免許状、情報処理士・上級情報処理士を取得するためには、◎印(必修)の単位を修得すること。
2. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

生活環境学科

(1) 教育目的について

循環型社会(環境への負荷ができるかぎり低減される社会)における生活のあり方を探求し、住、衣、食を主とした生活環境学領域およびビジネス・情報等の専門知識や技能を有する人材の育成を目的とします。

(2) 授業科目について

4年間の履修を通して、生活とそれを取りまく近接環境について、住生活、衣生活、食生活、ビジネス・情報を生活環境学の視点から考察し行動できる力の養成をめざします。全学共通科目による豊かな教養の上に、学科専門科目で幅広い関連知識を学び、長寿社会や循環型社会等の言葉で表現されるこれからの時代を担い社会に貢献する意志と能力を育てます。さらに、卒業後専門としたい領域についてより深く学んでいくことや、関連する免許や資格の取得にもつながる科目が多数用意されています。

学科専門科目は、全員に関わる科目群と、希望する領域に関わる科目群とに分けられます。全員に関わる科目群は、生活環境学の諸領域や近接環境との関わりを総合的に捉え、どの専門領域をめざす場合にも履修することが望ましい基礎科目と経験を広めると同時に深く追求する姿勢を身に付けるための卒業研究とで構成されています。希望する分野に関わる科目群は、建築・インテリア、ファッション・テキスタイル、栄養・フード、ビジネス・情報系科目です。

以下に、卒業後の進路や資格取得との関係を中心に A から F を示します。卒業要件と照らしながら、各自の履修計画を立ててください。なお、希望する免許・資格取得については、「4.免許・資格」を参照してください。

- A. 建築・インテリア : 卒業と同時に国家資格である一級・二級建築士受験資格を取得する。更に最短2年の実務経験で一級建築士免許登録資格を取得するなどして、住宅産業・建築設計・建設・インテリア・リフォーム・家具業界等での活躍をめざす。関連してインテリア系諸資格や商業施設士などの取得をめざす。
- B. ファッション・テキスタイル : テキスタイルアドバイザーの資格を取得するとともに色彩検定、カラーコーディネーター検定、ファッションビジネス能力検定などのアパレル関係の諸種の資格を取得し、繊維・ファッション関連業界への就職をめざす。
- C. 栄養・フード : フードスペシャリストとフードコーディネーター3級の資格を取得し、調理・食品・栄養・フードコーディネーター等についての知識と実践的技術を身に付け、食品流通や外食産業関連業界への就職をめざす。また、教職希望者については食生活に関する知識と技能を修得する。
- D. ビジネス : 日商簿記やファイナンシャル・プランニング技能士などビジネス関係の資格を取得し、就職に強いキャリアアップの基盤を修得するとともに賢い消費者となるための幅広い知識を深める。
- E. 情報 : 上級情報処理士、情報処理士、IT パスポートなど情報関係の資格取得をめざす。
- F. 教職 : 衣食住をはじめ生活環境学の諸領域に関する幅広い知識を深め、中学校教諭一種(家庭)・高等学校教諭一種(家庭)の免許状を取得する。

(3)教育課程について

生活環境学科 専門科目

授 業 科 目		単位数		授業形態	配 当 学 年								授業時間数	免 許 ・ 資 格											
					1年		2年		3年		4年			建 築 士	衣 料 管 理 士	フ ィ ド コ ー デ ィ ネ ー タ ー	フ ィ ド ス ペ ィ ャ リ ス ト	日 商 簿 記 検 定	F P 技 能 士	情 報 処 理 士	上 級 情 報 処 理 士	I T パ ス ポ ー ト	ホ ー ム ペ ー ジ 作 成 検 定	中 一 種 免	高 一 種 免
		前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期															
											必修	選択													
基 礎 科 目	生活環境学概論	2		講義							2														
	生活と環境		2	講義							2														
	家庭経済学		2	講義							2					△							◎	◎	
	家族関係学		2	講義							2												◎	◎	
	色彩学		2	講義							2		◎												
	保育学		2	講義							2												◎	◎	
	住生活論	2		講義							2	○											◎	◎	
	住居学	2		講義							2	○											◎	◎	
	生活工学		2	講義							2								◎						
	衣生活論	2		講義							2		◎										◎	◎	
	被服科学	2		講義							2		◎										◎	◎	
	被服構成学		2	講義							2		◎										◎	◎	
	被服構成実習1		1	実習							3		△										◎	◎	
	被服構成実習2		1	実習							3		△										◎	◎	
	食生活論	2		講義							2			◎	◎								◎	◎	
	食品学総論	2		講義							2			◎	◎								◎	◎	
	栄養学	2		講義							2			◎	◎								◎	◎	
	調理学実習1		1	実習							3			◎	◎								◎	◎	
	調理学実習2		1	実習							3			◎	◎								◎	◎	
	消費生活論	2		講義							2		◎						◎				◎	◎	
	消費者調査法		1	演習							2		◎				△						◎	◎	
	情報処理概論	2		講義							2						△	◎	◎						
	生活とICT	2		講義							2														
専 門 科 目	インテリアデザイン	2		講義							2	○		◎											
	インテリア材料	2		講義							2	○													
	インテリアデザイン演習1	1		演習							2	○													
	インテリアデザイン演習2	1		演習							2	○													
	建築基礎製図1	1		演習							2	○										◎	◎		
	建築基礎製図2	1		演習							2	○										◎	◎		
	住生活史	2		講義							2	○													
	居住福祉論	2		講義							2	○													
	住居管理学	2		講義							2	○										◎	◎		
	住宅デザイン1	2		講義							2	○													
	住宅デザイン2	2		講義							2	○													
	住宅デザイン演習1	1		演習							2	○													
	住宅デザイン演習2	1		演習							2	○													
	住宅デザイン演習3	1		演習							2	○													
	住宅デザイン演習4	1		演習							2	○													
	建築計画1	2		講義							2	○													
	建築計画2	2		講義							2	○													
	建築計画演習1	1		演習							2	○													
	建築計画演習2	1		演習							2	○													
	建築計画演習3	1		演習							2	○													
	建築計画演習4	1		演習							2	○													
	都市計画	2		講義							2	○													
	建築CAD演習1	1		演習							2	○													
	建築CAD演習2	1		演習							2	○													
	建築CAD演習3	1		演習							2	○													
	建築CAD演習4	1		演習							2	○													
	建築設備1	2		講義							2	○													
	建築設備2	2		講義							2	○													
	住宅関連法規1	2		講義							2	○													
	住宅関連法規2	2		講義							2	○													
	建築材料学	2		講義							2	○													
	構造力学1	2		講義							2	○													
	構造力学2	2		講義							2	○													
	建築一般構造1	2		講義							2	○													
	建築一般構造2	2		講義							2	○													
	住宅施工	2		講義							2	○													
	建築構造材料実験1	1		実験							2	○													
	建築構造材料実験2	1		実験							2	○													

授 業 科 目			単位数		授業 形態	配 当 学 年								授業時間数	免 許 ・ 資 格											
						1年		2年		3年		4年			建 築 士	衣 料 管 理 士	フ ード コ ー デ ィ ネ ー タ ー	フ ード ス ペ ィ ャ リ ス ト	日 商 簿 記 検 定	F P 技 能 士	情 報 処 理 士	上 級 情 報 処 理 士	I T バ ス ボ ー ト	ホ ー ム ペ ー ジ 作 成 検 定	中 一 種 免	高 一 種 免
			前 期	後 期		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期															
専 門 科 目	フ ァ ッ シ ョ ン ・ テ キ ス タ ィ ル 科 目	テキスタイル材料学	2	講義								2	◎													
		テキスタイル材料学実験	1	実験									3	◎												
		被服整理学	2	講義									2	◎								○	○			
		被服整理学実験	1	実験									3	◎												
		染色加工学	2	講義									2	◎												
		染色加工実習	1	実習									3	△												
		衣環境学	2	講義									2	◎								○	○			
		パターンメイキング	1	演習									2	△												
		アパレルCAD演習	1	演習									2	◎												
		アパレルデザイン論	2	講義									2	△												
		アパレル生産実習	1	実習									3	◎												
		色彩学演習	1	演習									2	◎												
		ファッションドローイング	1	演習									2	△												
		アパレル造形演習	1	演習									2	◎												
	ファッションビジネス概論	2	講義									2	◎													
	アパレル企画演習	1	演習									2	◎													
	和装学実習	1	実習									3	△													
	栄 養 ・ フ ー ド 科 目	調理学	2	講義								2		△	◎							○	○			
		食品衛生学	2	講義								2		◎	◎											
		食物学実験	1	実験								3			◎											
		食品官能評価・鑑別1	1	演習								2			◎											
		食品官能評価・鑑別2	1	演習								2			◎											
		食空間とテーブルコーディネート	1	演習								2		◎												
		フードマネジメント論	2	講義								2		◎	◎											
		メニュープランニング実習	1	実習								3		◎												
		フードスペシャリスト論	2	講義								2			◎											
		フードコーディネート論	2	講義								2		◎	◎											
		食の商品開発とイベント演習	1	演習								2		△												
		製菓・製パンとカフェ	1	実習								3		△	△											
		ビ ジ ネ ス ・ 情 報 科 目	簿記演習1	1	演習								2					△	△							
			簿記演習2	1	演習								2					△	△							
	ファイナンシャルプランニング論		2	講義								2					△									
	ファイナンシャルプランニング演習		1	演習								2					△									
	ファイナンシャルプランニング実践		1	演習								2					△									
	情報科学概論		2	講義								2						◎	◎							
	生活情報論		2	講義								2						◎	◎							
	ホームページ作成演習		1	演習								2						◎	◎		△					
	マルチメディア演習		1	演習								2								◎						
	コンピュータデザイン演習		1	演習								2								◎						
	ソフトウェア開発演習1		1	演習								2						◎	◎		△					
	ソフトウェア開発演習2		1	演習								2								◎	△					
	ITストラテジ論		2	講義								2								◎	△					
	ITマネジメント論		2	講義								2								◎	△					
	ITテクノロジー論		2	講義								2								◎	△					
総 合 科 目	キャリアデザイン演習1		1	演習								2								◎						
	キャリアデザイン演習2	1	演習								2															
	異文化コミュニケーション	2	演習								4															
	アカデミックスキルズ	2	講義								2															
卒業研究		6	演習								-															

(注1) 免許・資格欄の◎印は資格の必修科目、○印は選択科目、△印は推奨科目。

(注2) 建築士試験の指定科目と必要単位数は、P.32の表1、2、3で確認すること。

(注3) 衣料管理士の◎印は2級必修科目(28単位)。

(注4) フードコーディネーターの◎印は3級必修科目(18単位)、△印は2級試験推奨科目。

(注5) 情報処理士・上級情報処理士の資格について、全学共通科目の「情報処理演習1」と「情報処理演習2」は資格必修科目。

(注6) 「卒業研究」は、「アカデミックスキルズ」の単位を修得していないと履修できません。

(4) 資格について

①建築士・インテリアプランナー

建築士は国家資格であり、設計事務所・住宅産業・建設業等において、建築物の設計・監理や工事管理・法令に基づく申請を行うために必要とされる、建築士法に定められた免許です。

建築士試験の受験資格取得のためには、指定科目の単位を修得する必要がある、試験合格後の資格登録に必要な建築実務の経験年数は、指定科目の修得単位数によって異なります。指定科目とは、公益財団法人建築技術普及センターが定めた、建築設計製図、建築計画、建築環境工学または建築設備、構造力学、建築一般構造または建築材料、建築生産、建築法規などの各分野において、大学が登録した科目のことです。本学が登録している各分野の指定科目は、表1、必要修得単位数については、表2、3で確認できます。なお本学では、試験合格後に資格登録の際の実務経験の期間が最短となるように、1級建築士では60単位、2級建築士では40単位を履修することを推奨、指導しています。

表1 指定科目に該当する本学の登録科目一覧

指定科目の分類	本学の登録科目	履修学年	単位数
①建築設計製図	建築基礎製図1	1年	1
①建築設計製図	建築基礎製図2	1年	1
①建築設計製図	住宅デザイン演習1	2年	1
①建築設計製図	インテリアデザイン演習1	2年	1
①建築設計製図	インテリアデザイン演習2	3年	1
①建築設計製図	建築計画演習1	3年	1
①建築設計製図	建築計画演習2	3年	1
①建築設計製図	建築計画演習3	4年	1
①建築設計製図	建築計画演習4	4年	1
①建築設計製図	建築CAD演習1	2年	1
①建築設計製図	建築CAD演習2	2年	1
小計			11
②建築計画	住居学	1年	2
②建築計画	住生活論	2年	2
②建築計画	住生活史	2年	2
②建築計画	居住福祉論	2年	2
②建築計画	住宅デザイン1	1年	2
②建築計画	住宅デザイン2	1年	2
②建築計画	建築計画1	2年	2
②建築計画	建築計画2	2年	2
小計			16
③建築環境工学	建築設備1	3年	2
小計			2
④建築設備	建築設備2	3年	2
小計			2
⑤構造力学	構造力学1	2年	2
⑤構造力学	構造力学2	2年	2
⑤構造力学	建築構造材料実験2	3年	1
小計			5
⑥建築一般構造	建築一般構造1	3年	2
⑥建築一般構造	建築一般構造2	3年	2
小計			4
⑦建築材料	建築材料学	2年	2
⑦建築材料	建築構造材料実験1	3年	1
小計			3
⑧建築生産	住宅施工	4年	2
小計			2
⑨建築法規	住宅関連法規1	3年	2
⑨建築法規	住宅関連法規2	4年	2
小計			4
⑩複合関連科目	住宅デザイン演習2	2年	1
⑩複合関連科目	住宅デザイン演習3	3年	1
⑩複合関連科目	住宅デザイン演習4	3年	1
⑩複合関連科目	建築CAD演習3	3年	1
⑩複合関連科目	建築CAD演習4	3年	1
⑩複合関連科目	住居管理学	3年	2
⑩複合関連科目	インテリアデザイン	1年	2
⑩複合関連科目	インテリア材料	2年	2
⑩複合関連科目	都市計画	4年	2
小計			13

表2 1級建築士試験・登録に係る必要
単位数と建築実務の経験年数

指定科目の分類	必要な単位数		
①建築設計製図	7単位		
②建築計画	7単位		
③建築環境工学	2単位		
④建築設備	2単位		
⑤構造力学	4単位		
⑥建築一般構造	3単位		
⑦建築材料	2単位		
⑧建築生産	2単位		
⑨建築法規	1単位		
①～⑨の計(a)	30単位		
⑩複合・関連科目(b)	適宜		
(a)+(b)	60単位	50単位	40単位
必要な実務経験年数 (試験時)	0年		
必要な実務経験年数 (登録時)	2年	3年	4年

表3 2級建築士試験・登録に係る必要
単位数と建築実務の経験年数

指定科目の分類	必要な単位数		
①建築設計製図	3単位		
②建築計画	2単位		
③建築環境工学			
④建築設備			
⑤構造力学	3単位		
⑥建築一般構造			
⑦建築材料			
⑧建築生産	1単位		
⑨建築法規	1単位		
①～⑨の計(a)	10単位		
⑩複合・関連科目(b)	適宜		
(a)+(b)	40単位	30単位	20単位
必要な実務経験年数 (試験時)	0年		
必要な実務経験年数 (登録時)	0年	1年	2年

インテリアプランナーとは、公益財団法人建築技術普及センターが認定する資格で、オフィス、店舗、住宅等のインテリアデザインを行う専門家です。インテリアプランナーの試験には、1 次の学科試験と 2 次の設計製図試験があり、1次と2次を合格後に登録を受けることにより「インテリアプランナー」を称することができます。なお、表4に示す科目について、認定条件を満たすように単位を修得すると、試験合格後に登録する際に必要とされる実務経験が2年から0年になります。

表4 インテリアプランナー登録資格に係る科目

	科目名	履修学年	単位数	
A	住生活史	2年	2	
	住宅デザイン1	1年	2	
	住宅デザイン2	1年	2	
	住生活論	2年	2	
	住居管理学	3年	2	
	居住福祉論	2年	2	
B	建築計画1	2年	2	
	建築計画2	2年	2	
	インテリアデザイン	1年	2	
	建築設備1	3年	2	
	建築設備2	3年	2	
	建築材料学	2年	2	
	建築構造材料実験1	3年	1	
	建築構造材料実験2	3年	1	
	住宅施工	4年	2	
	インテリア材料	2年	2	
	構造力学1	2年	2	
	構造力学2	2年	2	
	建築一般構造1	3年	2	
	建築一般構造2	3年	2	
	住宅関連法規1	3年	2	
	住宅関連法規2	4年	2	
	建築CAD演習1	2年	1	
	建築CAD演習2	2年	1	
	建築CAD演習3	3年	1	
	建築CAD演習4	3年	1	
	インテリアデザイン演習1	2年	1	
	インテリアデザイン演習2	3年	1	
	都市計画	4年	2	
	設計	建築基礎製図1	1年	1
		建築基礎製図2	1年	1
		住宅デザイン演習1	2年	1
		住宅デザイン演習2	2年	1
		住宅デザイン演習3	3年	1
		住宅デザイン演習4	3年	1
		住居学	1年	2
		建築計画演習1	3年	1
		建築計画演習2	3年	1
		建築計画演習3	4年	1
		建築計画演習4	4年	1

※認定条件(1～3 すべてを満たすこと)

1. A+B=36単位以上
2. B=24単位以上
3. Bのうち設計を1科目以上履修

②テキスタイルアドバイザー

テキスタイルアドバイザー（衣料管理士）は、日本衣料管理協会が認定する資格です。ファッションからインテリア、生活雑貨まで、私たちの生活を豊かに彩る繊維製品の企画・設計・生産/販売/品質管理・保証/消費者対応などについて、豊富な知識と技能、アイデアを活かして社会に貢献するプロフェッショナルです。

必要な単位を修得し、最終試験に合格すると卒業時に、一般社団法人日本衣料管理協会が認定する衣料管理士（2級）資格を取得できます。

③フードコーディネーター

フードコーディネーターの資格は3級から1級まであり、この資格は食の現場や経営サイドで活躍できる食のプロ養成を目指した資格です。フードコーディネーターの外食産業における活動範囲は、「食の商品開発」「レストランプロデュース」「フードプロモーション」の3分野を柱に、食品・飲料メーカーをはじめ、流通、マスコミ、ホテル&レストラン、産地（生産者）、教育など、フードビジネスのあらゆる分野にわたります。必要な単位を修得して、資格申請すると2年次の終了までに3級の資格取得ができます。さらに3級資格取得後は2級試験対策科目である推奨科目を履修して、2級試験に備えることができます。

④フードスペシャリスト

フードスペシャリストは、豊かな専門知識をベースに「食」に関する情報を提供する専門家です。食品メーカーにおいて食品の鑑別・管理・販売・消費者への情報提供・相談業務等を担当したり、スーパーマーケット・デパートなどの販売店、ホテル、レストラン等において提供する側と消費する側の調整を図ったりするスペシャリストです。

必要な単位を修得し認定試験に合格すると卒業時に、農林水産省監督のもとに社団法人日本フードスペシャリスト協会が認定する、フードスペシャリスト資格、専門フードスペシャリスト資格（食品開発、食品流通、サービス）を取得できます。

⑤日商簿記検定

日本商工会議所の簿記検定試験は、最もメジャーで企業からの評価も高い検定です。試験は年3回実施される「統一試験（ペーパー方式）」の他に、3級・2級で行われる「ネット試験」もあります。ネット試験は自分の希望する日時に受検することが可能なため、スケジュールを調整しながら取り組むことができます。簿記は経理職のみならず、一般事務や店舗経営など、様々な職種および副業や起業にも役立ちます。近年は英語やPCスキルとあわせて「ビジネスの基礎能力」として認知されるようになり、大学生のみならず社会人も勉強する方が増えています。生活環境学科では、△の印が付けられた科目において、3級および2級の資格取得のための指導を行っています。

⑥ファイナンシャル・プランニング技能士

ファイナンシャル・プランニング（FP）技能士は、顧客の家族構成・収支・資産状況などのデータをもとに、顧客のライフプラン上の目的（夢・希望）を達成するために、金融・税金・社会保険・民間保険・不動産・相続といった人生には欠かせないことについて、総合的に生活設計のプランニングを行い、その実行を支援していく専門家です。この資格は就職活動に有効であり、特に金融関連の業界や仕事を希望する人は取得しておいた方が好ましい資格です。生活環境学科では△の印が付けられた科目を通じて、ファイナンシャル・プランニング技能士3級・2級の取得をサポートしています。

⑦情報処理士・上級情報処理士

情報処理士・上級情報処理士とは、情報処理技術・ビジネスで活用されるソフトウェア技能、プレゼンテーション能力、および、オフィスの組織や情報の流れを活用するための基礎、応用を身につけた者に与えられる資格で、社会での活躍が期待されています。

- 情報処理士

生活環境学科の一覧表で、情報処理士欄に◎の印がつけられた「情報科学概論」、「ホームページ作成演習」、その他の「情報処理士」に必要な単位を修得した学生には、全国大学実務教育協会の「情報処理士の認定資格」が与えられます。

- 上級情報処理士

生活環境学科の一覧表で、上級情報処理士欄に◎の印がつけられた「IT テクノロジー論」、「情報科学概論」、「ホームページ作成演習」、「ソフトウェア開発演習1」、その他の「上級情報処理士」に必要な単位を修得した学生には、全国大学実務教育協会の「上級情報処理士の認定資格」が与えられます。

両資格とも、協会への認定証交付申請手続きは本学から一括して行い、認定登録に関わる費用を指定期限内に納めれば、認定証を卒業式当日にお渡しします。

⑧IT パスポート試験

IT パスポート試験は、情報処理技術者試験の分野において経済産業省が認定する国家試験のうちの一つです。IT パスポート試験は、これらの中でも入門的な位置付けの試験です。情報化社会の中で働く人が備えておきたい知識を持っていることの証明、即ち、職業人のパスポートとして通用する試験という意味が「IT パスポート」という名前に込められています。IT を最大限に生かした付加価値の高い仕事をする職業人を目指す人のための試験で、IT や経営、業務分析に関する基礎的な知識が問われます。国家試験ですので、大学外に試験を受けに行く必要がありますが、生活環境学科の一覧表において IT パスポート欄に△印が付けられた「IT テクノロジー論」、「IT マネジメント論」、「IT ストラテジ論」、「ソフトウェア開発演習1」などの授業において、IT パスポートの資格取得をサポートします。

⑨ホームページ作成検定

ホームページ作成検定は、日本情報処理検定協会が主催している検定試験です。パソコンを使ってホームページを作成する力を身に付け、情報化社会のなかでコンピュータの活用能力を向上させることを目的としています。ICT化の進展とともに、技術向上に合わせて初心者から段階的に受験できます。

生活環境学科では、△のついた科目において、ホームページ作成検定の資格取得をサポートしています。

<生活環境学科> カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

① 知識・技能	①DP1 生活を取りまく住・衣・食とビジネス・情報に関する環境の本質を理解できるような生活環境学に関する知識や技能を身に付けている
② 思考力・判断力・表現力	②DP2 生活環境に関する問題を把握し、解決するための思考力と判断力を身に付け、生活環境に関する自分自身の考えを他の人々にもうまく伝えることができる表現力がある
③ 主体性・多様性・協働性	③DP3 自分の知識や技能を信じ、主体的に探究し続けることができる能力、そして、必要な使命感や責任感を持ち、自ら成長しようとする姿勢および態度を身に付けている

科目別目標

特に重点的に育成する能力＝◎、重点的に育成する能力＝○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	UA0 0 00 L 1 01 Z	建学のこころ			○	◎
		UA0 0 37 L 2 14 L	初年次セミナー		◎	○	
		UA0 0 83 E 4 01 L	Basic English 1	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 05 L	総合英語A-1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 54 E 5 01 L	情報処理演習1	H1J1J2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 81 E 5 03 L	日本語表現法1	T4	◎	○	
		EE0 0 59 L a 01 L	生活環境学概論		◎	○	
		EE0 0 51 L a 02 L	生活と環境		◎	○	
		EE0 0 36 L a 03 L	家庭経済学	T5T6	◎	○	
		EE0 0 52 L a 11 L	住居学	A1A2T5T6	◎	○	
		EE0 0 59 L a 07 L	生活工学	J2	◎	○	
		EE0 0 38 L a 21 L	衣生活論	C1T5T6	◎	○	
		EE0 0 59 L a 31 L	食生活論	F1F2T5T6	◎	○	
		EE0 0 54 L a 41 L	情報処理概論	J1J2	◎	○	
		EE0 0 52 E b 21 L	建築基礎製図1	A1A2T5T6	○	◎	
		EE0 0 52 L b 31 L	住宅デザイン1	A1A2	◎	○	
		EE0 0 59 L c 31 L	衣環境学	C1	◎	○	
		EE0 0 59 L d 11 L	調理学	F1T5T6	◎	○	
		EE0 0 33 E e 11 L	簿記演習1		◎	○	
1・2		UA0 0 33 L 2 05 L	国際事情		◎	○	
		UA0 0 33 L 2 07 L	くらしの経済		◎	○	
		UA0 0 43 L 2 10 L	一般化学		◎	○	
		UA0 0 46 L 2 11 L	生命のしくみ		◎	○	
		UA0 0 85 E 4 09 L	初級フランス語1		◎	○	
		UA0 0 82 E 4 12 L	初級中国語1		◎	○	
		UA0 0 49 L 6 01 L	健康科学	H1N2	◎	○	○
		UA0 0 78 P 6 02 L	スポーツ1	H1N3T1T3T4T5T6T7	◎		○
1	後期	UA0 0 37 E 2 15 L	初年次演習		○	◎	
		UA0 0 83 E 4 02 L	Basic English 2	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	○
		UA0 0 83 E 4 06 L	総合英語A-2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	○
		UA0 0 54 E 5 02 L	情報処理演習2	H1J1J2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 81 E 5 04 L	日本語表現法2	T4	○	◎	
		EE0 0 59 L a 04 L	家族関係学	T5T6	○	◎	
		EE0 0 75 L a 06 L	色彩学	C1	◎	○	○
		EE0 0 37 L a 05 L	保育学	T5T6	◎	○	
		EE0 0 59 L a 22 L	被服科学	C1	◎	○	
		EE0 0 59 L a 23 L	被服構成学	C1T5T6	◎	○	
		EE0 0 49 L a 32 L	食品学総論	F1F2T5T6	◎	○	
		EE0 0 59 T a 34 L	調理学実習1	F1F2T5T6	◎	○	○
		EE0 0 52 L b 11 L	インテリアデザイン	A1A2F1	◎	○	
		EE0 0 52 E b 22 M	建築基礎製図2	A1A2T5T6	○	◎	
		EE0 0 52 L b 32 M	住宅デザイン2	A1A2	◎	○	
		EE0 0 59 E c 33 L	ファッションドローイング		◎	○	
		EE0 0 54 L e 31 M	情報科学概論	J1J2	◎	○	
		EE0 0 33 E e 12 L	簿記演習2		◎	○	

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1・2	後期	UA0 0 36 L 1 02 M	ジェンダー論			◎	○
		UA0 0 36 L 1 03 L	キャリア入門		◎	○	○
		UA0 0 14 L 2 02 L	心のしくみ		◎	○	
		UA0 0 32 L 2 06 L	日本国憲法	N2T1T3T4T5T6T7	◎		
		UA0 0 42 L 2 12 L	生活の物理		◎	○	
		UA0 0 45 L 2 13 L	地球環境と人間		◎	○	
		UA0 0 85 E 4 10 L	初級フランス語2			◎	○
		UA0 0 82 E 4 13 L	初級中国語2			◎	○
		UA0 0 78 P 6 03 L	スポーツ2	H1N3T1T3T4T5T6T7	○		◎
		EE0 0 59 E f 01 Z	異文化コミュニケーション			○	◎
2	前期	UA0 0 83 E 4 03 M	Advanced English 1		○	◎	
		UA0 0 83 E 4 07 M	総合英語B-1		○	◎	
		EE0 0 52 L a 12 L	住生活論	A1A2	◎	○	
		EE0 0 59 T a 24 L	被服構成実習1	T5T6	◎	○	○
		EE0 0 49 L a 33 L	栄養学	F1F2T5T6	◎	○	
		EE0 0 59 T a 35 L	調理学実習2	F1F2T5T6	○	○	◎
		EE0 0 54 L a 42 L	生活とICT		◎	○	
		EE0 0 52 L b 12 L	インテリア材料	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 L b 02 L	居住福祉論	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 E b 33 L	住宅デザイン演習1	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 L b 23 L	建築計画1	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 E b 41 L	建築CAD演習1	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 L b 51 L	構造力学1	A1A2	◎	○	
		EE0 0 58 L c 11 L	テキスタイル材料学	C1	◎	○	○
		EE0 0 58 E c 34 L	パターンメイキング		◎	○	
		EE0 0 59 L c 32 L	アパレルデザイン論		◎	◎	
		EE0 0 75 E c 01 M	色彩学演習	C1	○	◎	○
		EE0 0 49 L d 21 L	食品衛生学	F1F2	◎	○	
		EE0 0 33 L e 21 L	ファイナンシャルプランニング論		◎	○	
		EE0 0 54 E e 61 L	ソフトウェア開発演習1	J1J2	○	◎	
		EE0 0 54 L e 32 L	ITテクノロジー論	J2	○	◎	
2・3		UA0 0 11 L 2 01 L	哲学の方法		◎	○	
		UA0 0 91 L 2 03 L	文学の表現と鑑賞		○	◎	
		UA0 0 29 L 2 08 L	生活と地理		◎	○	
		UA0 0 76 E 3 01 L	音楽		◎	○	
		UA0 0 85 E 4 11 M	中級フランス語		○	◎	
2	後期	UA0 0 82 E 4 14 M	中級中国語		○	◎	
		UA0 0 83 E 4 04 M	Advanced English 2			◎	○
		UA0 0 83 E 4 08 M	総合英語B-2			◎	○
		EE0 0 59 T a 25 M	被服構成実習2	T5T6	◎	◎	○
		EE0 0 52 E b 13 L	インテリアデザイン演習1	A1A2	○	◎	
		EE0 0 38 L b 01 L	住生活史	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 E b 34 M	住宅デザイン演習2	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 L b 24 M	建築計画2	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 E b 42 M	建築CAD演習2	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 L b 61 L	建築材料学	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 L b 52 M	構造力学2	A1A2	◎	○	
		EE0 0 58 M c 12 M	テキスタイル材料学実験	C1		◎	◎
		EE0 0 58 E c 35 L	アパレルCAD演習	C1	◎	◎	
		EE0 0 59 E d 31 L	食空間とテーブルコーディネート	F1	○	◎	
		EE0 0 49 L d 42 L	フードマネジメント論	F1F2	◎	○	
		EE0 0 58 M d 32 M	メニュープランニング実習	F1		○	◎
		EE0 0 59 L d 41 L	フードコーディネート論	F1F2	◎	○	
		EE0 0 33 E e 22 M	ファイナンシャルプランニング演習		◎	○	
		EE0 0 54 E e 41 M	ホームページ作成演習	J1J2	○	◎	
		EE0 0 54 E e 62 M	ソフトウェア開発演習2	J2		◎	○
		EE0 0 54 L e 33 M	ITマネジメント論	J2	○	◎	

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
2・3	後期	UA0 0 21 L 2 04 L	歴史に学ぶ		◎	○	
		UA0 0 41 L 2 09 L	数学の世界		◎	○	
		UA0 0 72 E 3 02 L	美術		◎	○	
		UA0 0 72 E 3 03 L	書道		◎	○	
3	前期	EE0 0 36 L a 08 M	消費生活論	C1J2T5T6	◎	○	
		EE0 0 52 L b 03 L	住居管理学	A1A2T5T6	◎	○	
		EE0 0 52 E b 35 M	住宅デザイン演習3	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 E b 25 L	建築計画演習1	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 E b 43 M	建築CAD演習3	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 L b 71 L	建築設備1	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 L b 81 L	住宅関連法規1	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 L b 53 L	建築一般構造1	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 M b 62 H	建築構造材料実験1	A1A2		○	◎
		EE0 0 59 L c 21 M	被服整理学	C1	◎	○	○
		EE0 0 58 L c 23 L	染色加工学	C1	◎	○	
		EE0 0 58 T c 36 M	アパレル生産実習	C1	○	◎	◎
		EE0 0 58 L c 41 L	ファッションビジネス概論	C1	◎	◎	○
		EE0 0 49 M d 22 M	食物学実験	F2		○	◎
		EE0 0 49 E d 23 L	食品官能評価・鑑別1	F2		○	◎
		EE0 0 33 E e 23 M	ファイナンシャルプランニング実践		◎	○	
	後期	EE0 0 54 E e 51 M	マルチメディア演習	J2	○	◎	
		EE0 0 54 E e 71 L	コンピュータデザイン演習	J2	○	◎	
		EE0 0 54 L e 34 M	ITストラテジ論	J2	○	◎	
		EE0 0 37 E f 11 L	キャリアデザイン演習1	J2		○	◎
		EE0 0 52 E b 14 M	インテリアデザイン演習2	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 E b 36 M	住宅デザイン演習4	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 E b 26 M	建築計画演習2	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 E b 44 M	建築CAD演習4	A1A2	○	◎	
		EE0 0 52 L b 72 M	建築設備2	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 L b 54 L	建築一般構造2	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 M b 63 H	建築構造材料実験2	A1A2		○	◎
		EE0 0 59 M c 22 M	被服整理学実験	C1	○	◎	◎
		EE0 0 58 M c 24 M	染色加工実習		○	◎	◎
		EE0 0 58 E c 37 M	アパレル造形演習	C1	○	◎	◎
		EE0 0 49 E d 24 M	食品官能評価・鑑別2	F2		○	◎
		EE0 0 59 L d 43 M	フードスペシャリスト論	F2	◎	○	
4	前期	EE0 0 37 E f 12 L	キャリアデザイン演習2			○	◎
		EE0 0 00 L f 31 M	アカデミックスキルズ		○	○	◎
		EE0 0 36 E a 09 M	消費者調査法	C1		◎	○
		EE0 0 52 E b 27 M	建築計画演習3	A1A2	○	◎	◎
		EE0 0 52 E b 28 M	建築計画演習4	A1A2	○	◎	◎
		EE0 0 51 L b 91 L	都市計画	A1A2	◎	○	
		EE0 0 52 L b 82 M	住宅関連法規2	A1A2	◎		
		EE0 0 52 L b 55 L	住宅施工	A1A2	◎	○	
		EE0 0 58 E c 38 M	アパレル企画演習	C1	○	◎	◎
		EE0 0 59 M c 03 M	和装学実習		○	◎	◎
	後期 通年	EE0 0 58 E d 44 M	食の商品開発とイベント演習			◎	◎
		EE0 0 58 T d 33 M	製菓・製パンとカフェ			◎	◎
		EE0 0 54 L e 35 L	生活情報論	J1J2		◎	○
		EE0 0 00 E g 11 H	卒業研究		○	◎	◎

<生活環境学科>カリキュラムツリー

- (1) * 印の科目はいずれかの学年で履修できる。(2) 科目名に記載の①②③は①DP1、②DP2、③DP3を示す。
(3) **ゴシック体**は資格必修科目、斜体は資格選択科目。なお、科目名に記載されている“〜”は食の資格関連科目を示す。* フードコーディネーター3級、* フードコーディネーター2級(資格選択科目)、* フードスペシャリスト
(4) 資格関連科目の推奨科目については、P.30～P.31を参照のこと。
(5) 科目間の→は履修順序を示す。(逆方向の履修は控える)

ツリーの見方

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
全学共通科目	人間形成	③建学のこころ ②ジェンダー論 * ①キャリア入門 *	②ジェンダー論 * ①キャリア入門 *	②ジェンダー論 * ①キャリア入門 *					◇人間形成 一般教育、芸術、外国語、情報・情報・表現・体育・健康科目から幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付けている。 ◇専門科目の学修の基礎作りとなる知識や技能を身に付けている。
	一般教育	①国際事情 * ①一般化学 * ①生命のしくみ * ①地球環境と人間 *	①国際事情 * ①一般化学 * ①生命のしくみ * ①哲学の方法 * ①生活と地理 * ①くらしの経済 *	①日本国憲法 * ①生活の物理 * ①心のしくみ * ①地球環境と人間 * ①歴史に学ぶ * ①数学の世界 *	①日本国憲法 * ①生活の物理 * ①心のしくみ * ①地球環境と人間 * ①歴史に学ぶ * ①数学の世界 *	①歴史に学ぶ * ①数学の世界 *			
	芸術	①くらしの経済 * ①初年次セミナー	②文学の表現と鑑賞 *	②文学の表現と鑑賞 *	②文学の表現と鑑賞 *	②文学の表現と鑑賞 *			
	外国語	①Basic English 1 ①総合英語A-1 → ①初級フランス語1 * → ①初級中国語1 * →	②Basic English 2 ②総合英語A-2 ②初級フランス語2 * ②初級中国語2 *	①書道 * ①美術 *	①書道 * ①美術 *	①書道 * ①美術 *			
基礎科目	情報・表現	①情報処理演習1 → ①日本語表現法1	①情報処理演習2 ②日本語表現法2						◇生活環境の領域に関する基礎的知識や技能を身に付けている。 ◇生活環境学に関する基礎知識や技能を身に付けている。
	体育・健康	①健康科学 * ①スポーツ1 * → ①スポーツ2 *	①健康科学 * ①スポーツ1 * → ①スポーツ2 *	①健康科学 * ①スポーツ1 * → ①スポーツ2 *					
	生活環境学概論	①生活環境学概論 ①生活と環境 ①家庭経済学 ①住居学 ①生活工学 ①情報処理概論 ①衣生活論 ①食生活論 ^{ac}	①生活環境学概論 ①生活と環境 ①家庭経済学 ①住居学 ①生活工学 ①情報処理概論 ①衣生活論 ①食生活論 ^{ac}	①住生活論 ①生活とCT ①被服構成実習1 → ①被服構成実習2 ①栄養学 ^{ac} ①調理学実習1 ^{ac} → ①調理学実習2 ^{ac}	①消費生活論 ②消費者調査法				
	基礎科目								

教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法

授 業 科 目		単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	備 考
		必 修	選 択		1年		2年		3年		4年			
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
A	教育原理		2	講義									2	
	教育史		2	講義									2	
	教師論		2	講義									2	
	教育制度論		2	講義									2	
	教育心理学		2	講義									2	
	特別支援教育論		2	講義									2	
	教育課程論		2	講義									2	
B	道德の指導法		2	講義									2	
	総合的な学習の時間の指導法		2	講義									2	
	特別活動の指導法		2	講義									2	
	教育の方法と技術 (ICTの活用を含む)		2	講義									2	
	生徒指導の理論と方法 (進路指導を含む)		2	講義									2	
	教育相談 (カウンセリングを含む)		2	講義									2	
C	教育実習1		2	実習									—	
	教育実習2		2	実習									—	
	教育実習指導		1	講義									1	
	教職実践演習(中・高)		2	演習									4	
D	家庭科教育法1		2	講義									2	
	家庭科教育法2		2	講義									2	
	家庭科教育法3		2	講義									2	
	家庭科教育法4		2	講義									2	
	家庭科A・L指導法		2	講義									2	

(注) A欄は「教育の基礎的理解に関する科目」

B欄は「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

C欄は「教育実践に関する科目」

D欄は「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」

※教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法の修得方法は、P.45～49を参照すること。

※教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法は、卒業に必要な単位には含めない。

(注) 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

〈生活環境学部 教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP: ディプロマポリシー

① 知識・技能	①DP1 教職に関する幅広い基礎知識と技能および、家庭科の専門的知識と技能を有し、授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
② 思考力・判断力・表現力	②DP2 学校現場等で生じている問題や地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができ、理論と実践を結びつけることができる。
③ 主体性・多様性・協働性	③DP3 教育的愛情を持って児童・生徒に接することができ、対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

科目別目標

特に重点的に育成する能力＝◎、重点的に育成する能力＝○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	ET0 0 37 L z 01 L	教育原理	T5T6	○	◎	
		ET0 0 37 L z 02 L	教育課程論	T5T6	◎	○	
	後期	ET0 0 37 L z 03 L	教育史	T5T6	◎		
		ET0 0 37 L z 31 L	生徒指導の理論と方法(進路指導を含む)	T5T6	○	◎	
2	前期	ET0 0 37 L z 05 L	教育制度論	T5T6	◎	○	
		ET0 0 37 L z 04 L	教育心理学	T5T6	◎	○	
		ET0 0 37 L z 21 L	道德の指導法	T5	◎		○
	後期	ET0 0 37 L z 06 L	教師論	T5T6		◎	○
		ET0 0 37 L z 12 L	教育の方法と技術(ICTの活用を含む)	T5T6	◎	○	
		ET0 0 37 L z 32 L	教育相談(カウンセリングを含む)	T5T6	◎	○	
		ET0 0 37 L z 11 L	家庭科教育法1	T5T6	◎	○	
3	前期	ET0 0 37 L z 07 L	特別支援教育論	T5T6		◎	○
		ET0 0 37 L z 22 L	特別活動の指導法	T5T6	◎		○
		ET0 0 37 L z 13 L	家庭科教育法2	T5T6	○	◎	
	後期	ET0 0 37 L z 23 L	総合的な学習の時間の指導法	T5T6	◎	○	○
		ET0 0 37 L z 41 L	教育実習指導	T5T6		○	◎
		ET0 0 37 L z 14 M	家庭科教育法3	T5T6	○	◎	○
		ET0 0 37 L z 16 M	家庭科A・L指導法	T5T6	◎	○	○
4	前期	ET0 0 37 T z 42 H	教育実習1	T5T6		○	◎
		ET0 0 37 T z 43 H	教育実習2	T5		○	◎
		ET0 0 37 L z 15 M	家庭科教育法4	T5T6	○	○	◎
	後期	ET0 0 37 E z 08 H	教職実践演習(中・高)	T5T6	○	○	◎

＜生活環境学部 教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法＞カリキュラムツリー

ツリーの見方

科目間のーは履修順序を示す。(逆方向の履修は控える)

●：中学校教諭一種免許状(家庭) ○：高等学校教諭一種免許状(家庭)

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理●○ 教育課程論●○		教師論●○ 教育心理学○ 教育制度論●○ 教育史●○	特別支援教育論●○					◇教育の意義や教員の役割について理解し、教員の職務内容についての知識を身に付けている。 ◇特別な支援を要する児童・生徒への教育理論を修得する。 ◇教育の理念・歴史・思想について理解し、児童・生徒の心身の発達や学習の過程についての理論を修得する。 ◇教育課程の意義や編成の方法、教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する知識を身に付けている。
道徳・総合的な学習の時間に関する科目・各教科の指導法及び生徒指導、			家庭科教育法1●○→ 教育の方法と技術 (ICTの活用を含む) ●○ 道徳の指導法● 生徒指導の理論と方法 (進路指導を含む) ●○	家庭科教育法2●○→ 家庭科A・L指導法●○ 特別活動の指導法●○ 総合的な学習の時間の指導法●○	家庭科教育法3●○→		家庭科教育法4●○		◇家庭・道徳・特別活動・総合的な学習の時間についての指導法や情報機器及び教材の活用についての技術を身に付けている。 ◇生徒指導や進路指導及び教育相談についての理論や方法を身に付けている。
教育実践に関する科目									◇教育実習において教員として必要な実践的な技術を修得するとともに、教職実習演習において教職についての知識・技術の補完と統合を行い、教員として必要な最低限の資質を身に付けている。

4. 免許・資格

教員免許状

(教員免許状以外の資格については、P.32～35 を参照してください。)

〔1〕 本学で教員免許状授与の所要資格を取得できる免許状は次のとおりです。

学 科	免 許 状 の 種 類
生活環境学科	中学校教諭一種免許状(家庭) 高等学校教諭一種免許状(家庭)

〔2〕 教員免許状を取得するためには、基礎資格(下表)を有し、「教育職員免許法及び同法施行規則」に定められた科目を履修し、所定の単位数を修得しなければなりません。

1) 免許状の種類にかかわらず「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」について、それぞれ2単位以上を修得しなければなりません。

(P.47 表1)

2) 法により免許状の種類ごとに「教科及び教科の指導法に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」がそれぞれ規定されています。(下表)

免許状の種類ごとの履修方法を P.48 表2以降に掲載していますので、それに基づいて必要な科目及び単位数を修得してください。

免許状の種類	基礎資格	専門科目の最低修得単位数		
		教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目等
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	28	4	27
高等学校教諭一種免許状		24	12	23

〔3〕 その他

1) 教育実習の履修について

教育実習の単位修得には、「学校現場における実習」(高等学校は2単位、中学校は4単位)と「事前及び事後の指導」(1単位)が必要です。本学では、「教育実習1」「教育実習2」「教育実習指導」が該当します。

事前及び事後の指導は、授業科目「教育実習指導」のほか、ガイダンスや実習報告会等でも行いますので、必ず出席してください。4年後期開講科目「教職実践演習(中・高)」でも振り返りと省察を行います。事前指導では、教育実習の意義と心構え、実習内容、実習記録の書き方、学習指導案の作成や授業づくりのポイント等を学び、事後指導では、教育実習報告会の実施、実習体験レポートの提出などを行います。

教育実習にあたって、特に注意すべき点は以下の通りです。

- ① 教育実習校の決定後は、自己都合による変更はできません。
- ② 実習校・当該教育委員会が示す実習要件を満たすことが必要です。
- ③ 教育実習は、卒業見込みの年度に実施します。
- ④ 所定の事前指導は、すべて受けてください。
- ⑤ 教育実習の目的から、それまでに開講されている必要な教職科目はすべて履修していることが原則です。特に「教育の基礎的理解に関する科目等」が4単位以上不合格の場合は、実習が認められないことがあります。
- ⑥ 本学及び実習校の指示には必ず従ってください。指示に反して問題が生じた場合には、実習を中止させられることがあります。
- ⑦ 教育実習を履修する学生は、教育実習にかかる諸経費を所定の期間内に納める必要があります。

2) 教員免許状の授与申請について

1. 介護等体験

中学校の教員免許状の授与を受けようとする者は、特別支援学校及び社会福祉施設等その他文部科学省令で定められた施設において7日以上障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行い、その証明書が必要です。

介護等体験を希望する者は、体験の事前事後指導を受けるとともに、介護等体験にかかる諸経費を期間内に納める必要があります。

2. 申請手続

教員免許状は、本学で一括して愛知県教育委員会に申請し、卒業式当日に交付されます。申請に必要な諸経費を所定の期間内に納める必要があります。

〔教職職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕

所要科目の取得には、免許状の種類にかかわらず、表1に掲げる科目及び単位数を修得しなければなりません。

(表1)

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分		開設授業科目	単位数		配当学年
科目	単位数		必	選	
日 本 国 憲 法	2	日本国憲法	2		1・2 年後
体 育	2	スポーツ1 スポーツ2	1		1・2 年前 1・2 年後
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	Basic English 1 Basic English 2 総合英語 A－1 総合英語 A－2	1 1 1 1		1 年前 1 年後 1 年前 1 年後
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理演習1 情報処理演習2	1 1		1 年前 1 年後
備 考	各科目における開設科目をそれぞれ2単位以上修得すること。				

〔教科及び教科の指導法に関する科目〕

中一種免・高一種免(家庭)

生活環境学科
(表2)

免許法施行規則に定める科目区分等			中学校教諭一種免許状			高等学校教諭一種免許状			配当学年
科 目	単位数		開設授業科目	単位数		開設授業科目	単位数		
	中一種	高一種		必	選		必	選	
家庭経営学 (家族関係学及び 家庭経済学を含む。)	1単位以上		家族関係学	2		家族関係学	2		1年後
			家庭経済学	2		家庭経済学	2		1年前
			消費生活論		2	消費生活論		2	3年前
被服学 (被服実習を含む。)	1単位以上		衣生活論	2		衣生活論	2		1年前
			衣環境学		2	衣環境学		2	1年前
			被服科学		2	被服科学		2	1年後
			被服構成実習1	1		被服構成実習1	1		2年前
			被服構成実習2		1	被服構成実習2		1	2年後
			被服整理学		2	被服整理学		2	3年前
			被服構成学	2		被服構成学	2		1年後
食物学 (栄養学、食品学及び 調理実習を含む。)	1単位以上		食生活論		2	食生活論		2	1年前
			食品学総論	2		食品学総論	2		1年後
			栄養学	2		栄養学	2		2年前
			調理学実習1	1		調理学実習1	1		1年後
			調理学実習2		1	調理学実習2		1	2年前
			調理学		2	調理学		2	1年前
住居学	1単位以上		住居学	2		住居学	2		1年前
			住生活論	2		住生活論	2		2年前
			建築基礎製図1		1	建築基礎製図1		1	1年前
			建築基礎製図2		1	建築基礎製図2		1	1年後
			住居管理学		2	住居管理学		2	3年前
保育学	1単位以上		保育学	2		保育学	2		1年後
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	家庭科教育法1	2		家庭科教育法1	2		2年後
			家庭科教育法2	2		家庭科教育法2	2		3年前
			家庭科教育法3	2		家庭科教育法3		2	3年後
			家庭科教育法4		2	家庭科教育法4		2	4年前
			家庭科A・L指導法	2		家庭科A・L指導法	2		3年後
合 計	28単位	24単位	必修を含めて28単位以上 修得のこと。			必修を含めて32単位以上 修得のこと。			

* 下線の引かれた授業科目は、一般的包括的な内容を含む科目です。

〔教育の基礎的理解に関する科目等〕

中一種免・高一種免(家庭)

生活環境学科
(表3)

免許法施行規則に定める科目区分等				中学校教諭一種免許状				高等学校教諭一種免許状				配当 学年
科目	各科目に含める必要事項	単位数		開設授業科目	単位数		備考	開設授業科目	単位数			
		中一種	高一種		必	選			必	選		
教育の基礎的理解に関する科目	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10単位		教育原理	2			教育原理	2		1年前	
	教育史				2		教育史		2	1年後		
	・ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			教師論	2			教師論	2		2年後	
	・ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育制度論	2			教育制度論	2		2年前	
	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学	2			教育心理学	2		2年前	
	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育論	2			特別支援教育論	2		3年前	
	・ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論	2			教育課程論	2		1年前	
生徒指導、総合的な学習の時間等の指導法及び	・ 道徳の理論及び指導法	10単位	8単位	道徳の指導法	2		中免のみ				2年前	
	・ 総合的な学習(探究)の時間の指導法			総合的な学習の時間の指導法	2			総合的な学習の時間の指導法	2		3年後	
	・ 特別活動の指導法			特別活動の指導法	2			特別活動の指導法	2		3年前	
	・ 教育の方法及び技術 ・ 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			教育の方法と技術(ICTの活用を含む)	2			教育の方法と技術(ICTの活用を含む)	2		2年後	
	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			生徒指導の理論と方法(進路指導を含む)	2			生徒指導の理論と方法(進路指導を含む)	2		1年後	
	・ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			教育相談(カウンセリングを含む)	2			教育相談(カウンセリングを含む)	2		2年後	
科目 教育実践に関する	・ 教育実習	7単位	5単位	教育実習1	2			教育実習1	2		4年前	
				教育実習2	2		中免のみ				4年前	
	・ 教職実践演習			教育実習指導	1			教育実習指導	1		3年後	
				教職実践演習(中・高)	2			教職実践演習(中・高)	2		4年後	
合 計		27単位	23単位	必修を含めて31単位以上修得のこと。				必修を含めて27単位以上修得のこと。				

〔大学が独自に設定する科目〕

中一種免・高一種免(家庭)

生活環境学科
(表4)

免許法施行規則に定める科目区分等			中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
科 目	単位数			
	中一種	高一種		
大学が独自に設定する科目	4単位	12単位	「大学が独自に設定する科目」は、最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の合計単位数でもって充足されます。 したがって、 <u>「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、中一種、高一種ともに、合計59単位以上修得しなければなりません。</u>	

履修の手引き

2025 年 4 月発行

発行: 名古屋葵大学 学生支援センター教学支援部門

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町 3-40

TEL:052-852-9295 FAX:052-852-1173

<https://www.nagoya-aoi.ac.jp/>